



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
10月9日
発行

第57回

「企業業績はV字回復!？」

～ 減損企業に注目 ～

初めに

9月26日付け日本経済新聞は、日本の上場企業が2020年3月期に計上した減損損失が過去最大の4.2兆円に上ったと報じました。言うまでもなくこれは、新型コロナウイルスの影響によるものです。このように前期の日本企業の業績は多額の減損損失を計上したこともあり、厳しいものとなりました。しかし今期は逆にV字回復の可能性もあると見えています。今回はその理由をお話します。

減損損失

減損とは建物や車両など企業が所有する固定資産の収益性が何らかの理由（この場合は新型コロナウイルスの影響）で低下し、投資を回収できないと思われる時に資産の価値を実態に合わせて引き下げることです。引き下げ前の価値と引き下げ後の価値の差が損失として計上されます。2020年3月期には自動車や鉄鋼などの企業が多額の減損損失を計上しました。しかし今期については減損を計上したこともあって逆にV字回復の可能性もあると見えています。その仕組みは以下の通りです。

減損でV字回復

ある企業が今期大きな減損を計上すると今期の利益水準は低下します。しかし来期については基準となる前期の利益水準が低い為、前期比など伸び率は高くなりやすく、その結果V字回復となることが考えられます。これが今期日本の企業業績がV字回復となる可能性ありと考える理由です。

外部環境は改善

勿論V字回復の前提としては外部環境の改善が必要です。そうでなければ前期に次いで今期もまた減損と言うことになりかねません。しかしこの点については、徐々にではありますが、外部環境は改善しつつあると見えています。まず先日発表された9月の日銀短観では注目度が高い大企業製造業の業況判断DIが前回調査と比較して7ポイント改善しました。人の移動やイベント開催などの規制が緩和されつつあることなどから景気は今後も改善を続けると予想しています。これが今期の日本企業の業績はV字回復の可能性ありと考える理由です。また日本株投資においては大きな減損損失を計上した企業に注目するのも手かもしれません。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合があります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。